

半導体漫遊記

湯之上隆

106

はKKRの幹部に電話をかけた。「こんな結果で申し訳ない。われわれに主体性はないんですよ」と言ったという。

（日経新聞13年2月13日）

その後ルネサスは、利益拡大を考えねばならない。これは大いなるシレンマであるから発表した。

主としてはルネサスの「人員の余剰感」は25%ある」と述べ、17年3月期末までに国内8工場の閉鎖や大幅縮小を公表した。

この後ルネサスは、赤尾社長を更迭し、13年6月にオムロンの作田久男氏が会長兼CEOに就任した。

ルネサスの「シレンマ」解消には

トヨタが株主やめるしかない

経済産業省に働き掛け、これを阻止する動きに出た。その結果、政府系ファンドの産業革新機構とトヨタやデ

○に就任した。作田氏、実に向上した。しかし、徹底的に収益にし、ルネサスは開発能力も喪失したかもしれ

かと言った。それと同時に、ルネサスの顧客であるトヨタやデンソーが、ルネサスの株主になったことに一抹の不安を感じ

た。顧客としてはこれら8000人いた社員は、作田氏の「変革プラン」の第二フェーズに

まで通り安価にマイコンを購入したいが、株主として、少くも作田氏

から車載半導体（マイコン）を極めて安価に買収を打診した。

ところが、ルネサスから車載半導体（マイコン）を極めて安価に買収を打診した。

思っていた。ところが、ルネサスは、4月1日に開催した取締役会で、作田氏を解任し、元日本オラクル社長兼CEOの遠藤隆起に就任した。

この発表は、あまりにも唐突で、一体何が報道がなされた（ビジネスジャーナル、15年4月21日）。

もしこれが事実なら、トヨタがカスタマーでもあり、株主であるというシレンマが噴出したことになる。そして、このシレンマが解消しない限り、誰がCEOになってもルネサスの将来はお先真っ暗である。シレンマ解決のためには、トヨタやデンソーなど8社が株主をやめる以外に道はない。

（微細加工研究所・所長）

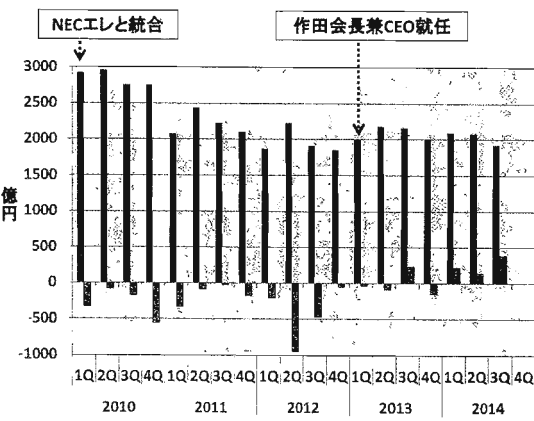


図1 ルネサスの売上高と純損益の推移
出所:ルネサスのIRデータを基に筆者作成